

令和3年度 福岡ひまわりの里 事業報告

【 事業概要 】

福岡ひまわりの里では、基本方針である①利用者の年齢や障がい特性に配慮した支援②専門性の向上と法令遵守に努めた支援③共生社会実現に向けた社会参加の推進を念頭に、関係機関や団体、他施設や事業所、地域等と連携し、利用者一人ひとりのニーズに合わせた福祉サービスの提供に取り組んでいます。

令和3年度も、新型コロナウイルスの影響で、職員・利用者・保護者に感染防止に向けた取り組みの実施・理解に努めました。利用者支援については、利用者の意見を反映しニーズに沿った支援に努めましたが、帰省や外出等はコロナ前のように行うことはできませんでした。日中活動については、利用者の個々の能力等に沿って、自立作業班、館内活動班、健康維持班を実施していますが、今年度も感染拡大防止の観点から男性・女性に分かれての活動や小グループでの活動を行いました。高齢化・加齢化に伴う機能低下については、機能回復訓練（リハビリ活動）や通院時の相談、訪問看護等外部の専門的な視点からの助言を得て、各利用者に合った活動や環境設定に努めました。加齢化に伴う健康面での医療的ケアについては、看護師を中心に医療機関や嘱託医と連携し対応しました。余暇支援については、新型コロナウイルスの影響で、スポーツ教室や外部講師との活動はありませんでしたが、館内で楽しく過ごせるようにレクリエーション等の充実を図りました。

事業運営では、老朽化する施設設備や高齢化する利用者等、多数の課題を踏まえ、移転新築に向けて計画的に進めています。また、職員配置を厚くすることで利用者支援の幅を広げようと企図していますが、十分増員することはできませんでした。

以下、項目ごとにご報告いたします。

1 利用者状況

令和4年3月31日現在

項 目	内 容		
平均年齢	54, 6歳（25歳～78歳）		
職員数	施設長・副施設長・支援員21名・看護師3名・他3名		
利用者居住区別	東区6名、博多区2名、中央区2名、南区7名、城南区7名、早良区8名、西区12名、その他2名 計46名		
事業別利用者数・定員	利用者（定員）	男 性	女 性
生活介護・施設入所支援	46（50）	30	16
合 計	46（50）	30	16

2 年間開所日数及び利用者数（一日平均利用者数）

生活介護	268日	12200人（45.5人）
施設入所支援	365日	16620人（45.5人）

3 事業別活動状況

（1）生活介護・施設入所支援

①日常生活支援

食事サービスについては、利用者に対する嗜好調査（リクエストメニュー）や支援員の意見を参考に、毎月1回給食委託業者との会議を今年度もリモート会議を中心に開催しました。会議での内容を、翌月以降の献立や食事内容に反映できるように努めました。利用者35名の食事に関しての支援や配慮（刻み食やリハビリ食器使用等）を必要とする28項目について、配慮表を作成しています。また、高齢化・機能低下にともない、トロミ食での提供利用者が2名になりました。食堂での食事が難しい利用者については、安全面に配慮し、娯楽室や居室にて支援しています。給食委託業者厨房スタッフ、看護師、支援員で、日々打ち合わせを行い、利用者が安心して楽しく食事をしていただけるよう支援をしています。また、引き続き3密を避けるため、男性は食堂、女性は作業室での食事の提供を実施しました。

散髪については、出張美容師にコロナの広がり等を確認しながら、感染予防対策・3密を避けた状態で実施しました。また、美容師での散髪が難しい方は施設内で実施しています。

入浴支援については、日曜を除く、月曜から土曜、祝日に実施いたしました。体力的に、毎日の入浴が難しい利用者については、記録表を作成し、衛生面に配慮した支援を行っています。

②日中活動支援

生活支援

健康観察、整容、着衣、歯磨き、持ち物の整理や居室の掃除、シーツ交換、洗濯、トイレ使用など、利用者個々に合わせた支援を個別支援計画に沿って行いました。

日中活動

自立作業班（地域の清掃・館内清掃）、館内活動班（アイロンビーズ・季節工作等）、健康維持班（歩行、運動）を実施していますが、感染拡大防止の観点から3密を避けた活動形態で実施しました。また、散歩やドライブ等外での活動も感染対策を行いながら実施しました。

機能回復訓練（リハビリ活動）・リフレッシュ体操

筋力に衰えが見える利用者を対象に、理学療法士の石井里衣氏により機能回復訓練（リハビリ活動）を行い、身体機能の維持に努めました。また、コロナの関係で定期的に来訪していただくことが困難であったため、リフレッシュ体操として、ラジオ体操や音楽に合わせての手足運動を日課の中に適宜取り入れました。

（２）短期入所利用状況

利用者 0名

利用回数 0日

利用理由

新型コロナウイルスの感染拡大防止の密が避けられないため、利用については慎重に協議しました。

4 余暇支援

（１）余暇活動

①クラブ活動

外部講師指導のもと、毎月１回、茶道、音楽、絵画のグループに分かれて実施していますが、今年度も新型コロナウイルスの影響により、外部講師の来訪は中止しました。支援員を中心に、密を避けたクラブ活動を行いました。

②ハンドベル演奏

外部講師指導のもと、月１回土曜日の午後から１時間程度練習を行っていますが、今年度は新型コロナウイルスの影響により、外部講師の来訪は中止しました。

③誕生者外出・グループ外出

誕生月の利用者やニーズの合う小グループの利用者の希望を受けて、引率する支援員とプランを立てて外出を行っていますが、今年度も新型コロナウイルスの影響でコロナ前のような活動はできませんでした。島内の散歩やドライブ、島内でのお買い物等を中心に利用者が少しでも楽しめるように実施しました。

④ひまわりタイム・くつろぎタイム

ひまわりタイムは毎週火曜日と土曜日の午後に、食堂でおやつとコーヒーや紅茶を提供しています。くつろぎタイムは毎月第２、第４土曜日の１９時から食堂で希望者にビールもしくはノンアルコールビールとおつまみを提供しています。今年度も密を避けるため、男性・女性を分けて実施しました。

(2) 休日余暇活動

休日に会議室を開放し、利用者の希望をもとにレンタルしたDVDの鑑賞をしたり、支援員と戸外を散歩したり、また施設内で、お菓子の販売やジュース自販機の利用をしたり、楽しく過ごしていただくように努めました。

5 健康管理と防火管理等

①健康管理

利用者の健康状態を把握し、必要に応じて各病院への通院、連携に努めました。今年度は医療的ケアが必要になった利用者が1名退所いたしました。利用者の加齢によるものか、消化器系疾患、膀胱障害、視力低下、高血圧などが増えている傾向にあります。今後も引き続き、医療機関、看護師、支援員が日々の連携を密にして、緊急時の対応なども含め利用者が健康で過ごせるよう支援に努めます。

検診につきましては、健康診断年2回、精神科検診年4回、耳鼻科、歯科検診を年1回実施しました。日々の通院に関しては、利用者の加齢に伴い通院の頻度が増えています。そのため、日々の生活の中で未然に疾病を予防できるよう努めています。また、通院時の移動の安全と、コロナ禍での蜜をさけた移動から航送の頻度を増やしています。

②感染症対策

感染症が出た場合は施設内の消毒、マスク着用、防火扉の使用、居室食等にて対応し、拡大防止に努めていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みとしても実施しました。また、引き続き施設内の手すり、ドアノブ等の消毒、殺菌料製剤による手指消毒、乳酸菌飲料飲用による免疫力向上、居室の加湿器使用等も実施しています。3蜜にならないよう活動内容、移動方法等も工夫しています。また、関係機関とも連携をとって対策を進めています。

③避難訓練、防災、非常時対策

年3回の避難訓練を実施しました。夜間帯を想定した訓練も実施しています。感染症対策の中、利用者参加が難しい時は、職員間にて実施しました。また、地域にある福祉施設、事業所で災害時協力体制がとれるよう協定を結ぶ等、施設と地域の連携強化に努めています。

福岡ひまわりの里防災計画を策定しており、非常時、災害時における通報・連絡体制等の整備に努めています。また、自然災害発生時における事業継続計画を策定し、法人全体で防災対策に取り組んでいます。

夜間帯等の利用者の突発的な行動に対する安全確保のため、赤外線セン

サー、見守りカメラを設置していますが、犯罪防止や抑制効果としても運用しています。

6 その他の取り組み

(1) 旅行・日帰り旅行等

旅行やバスハイク等の行事は新型コロナウイルスの影響で中止や代替案の実施となりました。代替案を利用者と一緒に考え、実施することで行事気分を少しでも楽しんでもらえるように取り組みました。

(2) 利用者代表会（本人活動）

利用者代表として7名の利用者と月に1回、施設の運営等について意見交換を行いました。日々の生活、行事や食事について、また、利用者全体会で出された意見、要望について検討し、その意見が反映されるように努めました。

本人の声を聴く会

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止になりました。

(3) 保護者会との連携

保護者会を偶数月で年6回開催していますが、今年度も新型コロナウイルスの影響により、福岡ひまわりの里での開催は中止しました。10月に福祉プラザにて実施しています。その際、リモートで利用者と保護者との交流も行いました。保護者には定期的に電話にて利用者や施設の状況等について説明し、意思の疎通を図りました。また、保護者役員とは電話意見交換を行い、協力体制等の確認をおこないました。

(4) 職員研修

県社協や市社協の研修等、新型コロナウイルスの影響で中止となる研修がありました。リモート研修を中心に参加しました。

嘱託医である中庭洋一医師の精神科に関わる研修、施設内での定期的な事例検討や虐待防止研修、権利擁護研修を行いました。

新型コロナウイルスの影響で来訪できる日数に限りがありましたが、なかにおメンタルクリニック精神保健福祉士の吉岡孝弘氏による訪問看護をとおし、支援技術や専門知識の習得に努めました。また、理学療法士である石井里衣氏の機能回復訓練（リハビリ活動）をとおし、支援員も日常生活でリハビリの視点を持って支援を行えるように取り組んでいます。

(5) 他機関、団体との連携

主に特定相談支援事業所ひまわりと連携し、サービス等利用計画に伴うモニタリングや担当者会議等、保護者、後見人の協力を得ながらスムー

ズにできました。今年度もリモートでの実施や福祉プラザでの蜜を避けた会議等で実施しました。

また、福岡市民間障がい施設協議会、福岡県知的障害者福祉協会、能古校区福祉施設会議、能古校区青少年健全育成連絡協議会などの活動を通じて、関係団体や地域との連携に努めています。

7 地域との交流

能古中学校3年生の福祉体験学習は新型コロナウイルスの影響で中止となりました。

能古校区夏祭りと能古校区体育祭を地域との共催のイベントとして開催していますが、やはり新型コロナウイルスの影響で開催できませんでした。

6月に地域交流会を能古公民館にて行っていますが、こちらの行事も中止し、館内で利用者が楽しめるような企画を考え実施しました。

利用者5～6名のメンバーを選出し、地域清掃を実施しています。コロナ禍で活動回数は少なかったですが、地域の道路や公園等の清掃を行いました。

8 苦情受付状況

利用者との普段からの関わり、保護者会や日々の保護者との連絡等で気軽に相談できる環境作りに努めました。今年度は苦情の申し出はありませんでした。入所施設というシステム上、職員朝礼や会議等で虐待事例の検討や虐待報道の内容について会合を行い、日頃から利用者の権利擁護に配慮した取り組みを行いました。また、職員の行動宣言、スローガンを策定し、職員朝礼時に唱和することで、職員の意識付けを強化しています。

9 地域における公益的な取り組み

「ふくおかライフレスキュー事業」に参加し、区別地区で行われる連絡会に参加しました。今後、サポーター養成研修の受講等を含め、取り組み方について検討しています。